

褥瘡回診における薬剤師の役割

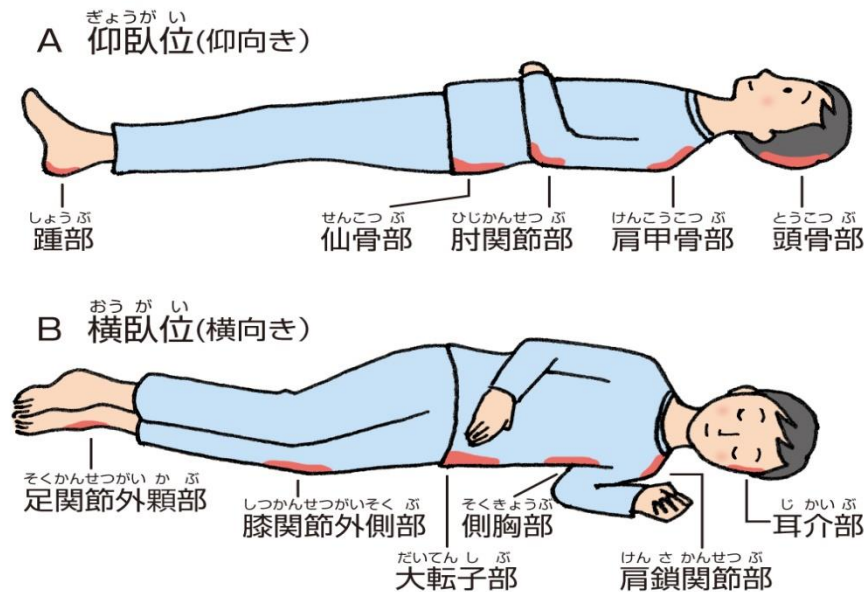
阪南中央病院 実習生

大阪医科薬科大学

田中陽大

褥瘡とは

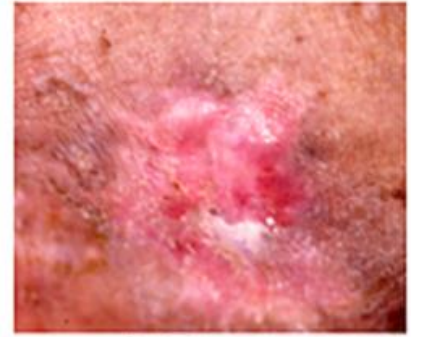
- 褥瘡とは寝たきりなどにより、体重で圧迫されている場所の血流が悪くなったり、滞ることにより、皮膚の一部が赤い色身を帯びたり、ただれたり、傷が出来てしまうこと。



褥瘡の重症度分類と治療方針

- ・ 白色期

創が収縮してくる段階で創の周囲から上皮化が起こる。外力を加えるずれにより、上皮化が進まない場合もあり、ずれへの対策が必要



△社団法人日本褥瘡学会

- ・ 赤色期

壊死状態が除去され、赤色の肉芽が現われた状態。この時期は柔らかく出血しやすいいため強くこすったりしないように注意が必要



- ・黄色期

黄色期とは黄色の壊死組織が創面に残っている状態。
壊死状態なので創の感染に注意。

黄色期



- ・黒色期

黒色の硬い壊死組織が付着。壊死状態を放置したままにしておくと感染のリスクが高くなるため早めに取り除く必要あり。

黒色期



軟膏の基剤について

分 類			基剤の種類	外用剤 (代表的な製品)	薬効成分
疎水性 基剤	油脂性 基剤	鉱物性 動植物性	白色ワセリン、プラスチックベース、単軟膏、亜鉛華軟膏	亜鉛華軟膏	酸化亜鉛
				アズノール [®] 軟膏0.033%	ジメチルイソプロピルアズレン
				プロスタンディン [®] 軟膏0.003%	アルプロスタジルアルファデクス
親水性 基剤	乳剤性 基剤	水中油型 (O/W型)	親水軟膏、バニシングクリーム	オルセノン [®] 軟膏0.25%	トレチノイントコフェリル
				ゲーベン [®] クリーム1%	スルファジアジン銀
		油中水型 (W/O型)	吸水軟膏、コールドクリーム、親水ワセリン、ラノリン	リフラップ [®] 軟膏5%	リゾチーム塩酸塩
				ソルコセリル [®] 軟膏5%	幼牛血液抽出物
	水溶性 基剤	マクロゴール軟膏		アクトシン [®] 軟膏3%	ブクラデシンナトリウム
				アルキサ [®] 軟膏2%	アルミニウムクロロヒドロキシアラントイネート
				ブロメライン軟膏5万単位/g	ブロメライン
		マクロゴール軟膏(+白糖)		メイスパン軟膏	精製白糖・ポビドンヨード
		マクロゴール600(+ビーズ)		デブリサン [®] ペースト	デキストラノマー
		マクロゴール(+吸水性ポリマー)		ヨードコート [®] 軟膏0.9%	ヨウ素
		マクロゴール(+ビーズ)		カデックス [®] 軟膏0.9%	カデキソマー・ヨウ素

抗菌作用を持つ褥瘡治療薬について

- 感染症併発の褥瘡治療に用いられる。
- メイSPAN軟膏 主に黒色期～赤色期に用いられる。精製白糖とポピドンヨードを配合した薬でポピドンヨードにはヨウ素を含み抗菌作用を示す。
- ヨードコート軟膏 主に黒色期～黄色期に用いられる。成分としては1 gあたりヨウ素を9 m g含むため、抗菌作用を示す。またMRSAに対しても強い殺菌作用を示す。
- ゲーベッククリーム 主に黒色期～黄色期に用いられる。含有するスルファジアジン銀により感染制御作用や壊死細胞を軟化や融解作用がある。



褥瘡回診における薬剤師の役割

- 医師

褥瘡の評価、治療方針の決定および治療

- 看護師

皮膚への負担を軽減させるための体位変換
褥瘡の適切な処置・ケア

- 薬剤師

褥瘡の段階にあった外用薬、抗菌薬の選択

症例

8 6 歳 男性

- ・ 10/12 感染性心内膜炎の疑いで入院
- ・ 12/10 仙骨部褥瘡発見、 CGFデュオアクティブを用いる
- ・ 12/22 アズノール軟膏 開始
- ・ 12/24 メイSPAN軟膏 開始
1日1~2回ガーゼにのばして貼布



12/10



12/17

1/7 褥瘡回診

- ・仙骨周囲にリング状の紅斑、中央に潰瘍が見られた。

ガーゼに滲出液あり。創周囲に少し白みあり。創の拡大、良性肉芽が乏しい。

→血管新生、肉芽形成、表皮形成促進作用があるアクトシン軟膏に変更。

潰瘍面を清拭後1日1~2回ガーゼにのばして貼布。

- ・創周辺に紅斑がみられ真菌感染を確認。

→抗真菌作用があるラミシールクリーム1日1回で開始



1/14 褥瘡回診

創の大きさが小さくなり、創自体の赤色部の割合が増え、黄色部の割合が減った。滲出液の減少、紅斑が減少した。

出血箇所あり。匂いはなかった。

→改善傾向

以後もアクトシン軟膏継続



まとめ

1/7時点でメイスパン軟膏が処方されており、メイスパン軟膏にも創傷治癒効果があるにもかかわらず、創が拡大し、効果が確認できなかった。しかしアクトシン軟膏に変えたところ、創が縮小し、良性肉芽生成が促進され、創傷治癒が確認できた。

基剤についてはさらにどちらも水溶性基剤であり、滲出液も減少するはずが、メイスパン軟膏では効果が確認できず、アクトシン軟膏では減少が確認できた。同じ水溶性基剤でも、薬効成分が違う事でここまで効果が変わるということに驚き、現場でしか確認できない治療薬の選択を見学することができ、勉強になりました。